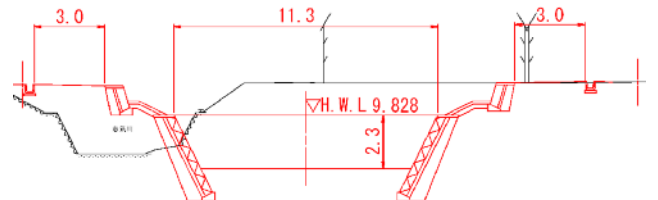
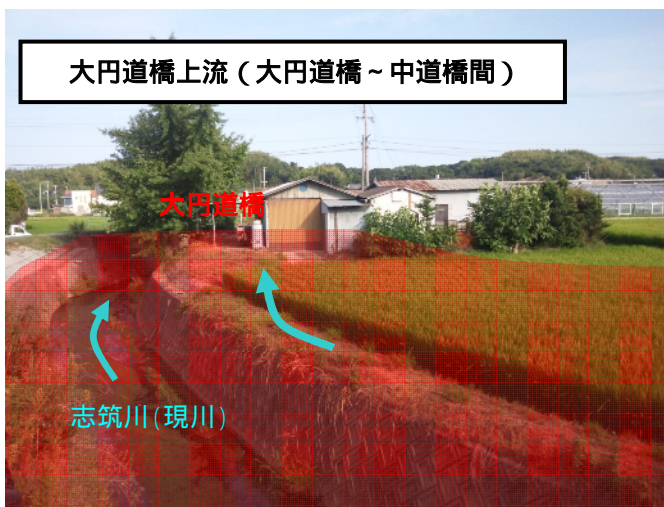
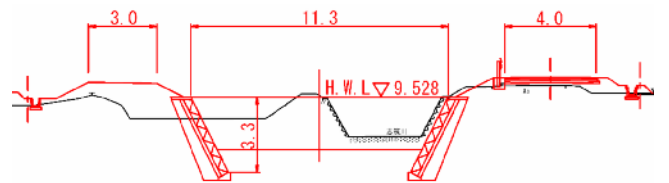
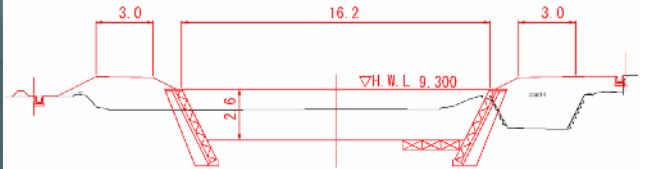


整備状況 (未整備箇所)



1. 実施工程表

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
調査			(埋蔵文化財調査を追加)			埋蔵文化財調査が終了			
用地買収						用地買収が完了 (放水路区間)		用地買収が完了 (志筑川拡幅区間)	
掘削	志筑川区間			宝珠川区間		放水路区間		志筑川上流区間	
護岸	志筑川区間			宝珠川区間		放水路区間		志筑川上流区間	
井堰・落差工					(井堰下部工)	(井堰上部工)	(落差工)		
分合流施設									
橋梁									

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

便益 (B) の項目

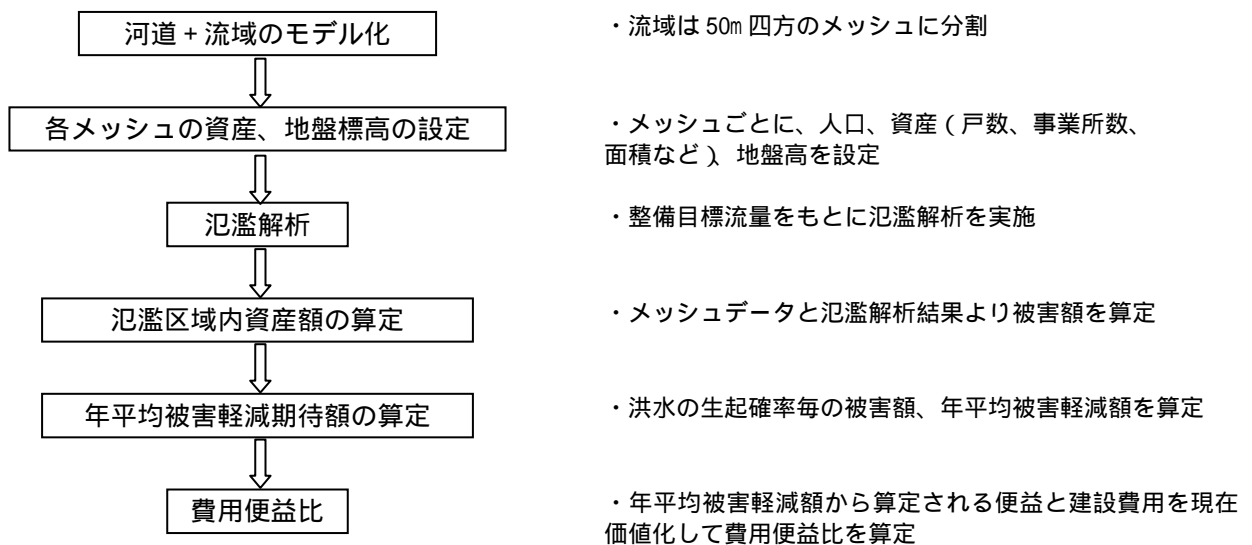
1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化被害額 = 一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等) + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化

< 凡例 >

■ 当初計画
■ 実施計画

治水経済調査マニュアル (案) 国土交通省河川局平成17年4月



費用便益比 (B / C) 算出根拠

便益 (B)		費用 (C)			B / C
総便益費 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
15,047.4	確率規模1/50の降雨に対して ・ 浸水戸数414戸の解消 ・ 浸水面積45haの解消	7,301.6	6,550.3	751.3	2.1

(2) 費用対効果に含まれない効果

- ・ 生物の多様な生活環境の保全・再生・創出による魅力ある河川空間の創造
植生定着を目的とした環境保全型ブロックによる護岸整備
井堰改築に伴い魚道を設置することによる河川連続性の確保
- ・ 親水空間の整備による魅力ある河川空間の創造
管理用通路を散策路として利用することによる親水性の向上